

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかだと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。



協定校等の具体的な留学先

最初の期待叶わずとも先にあるのは…

私は「イギリス人の友人に囲まれる生活」という期待を抱きながら、イングランド西部の小さな街チェルトナムで8か月間の留学生生活を始めました。前半はグロースターシャー大学の語学学校に通い、後半は大学の講義に参加しました。期待と相反して語学学校のクラスメイトの半分が日本人でした。この状況から抜け出すために学生の交流パーティーや地域で行われていた英語教室に毎週出かけるようになりました。そのうちインドやラトビアなど様々な国籍や年齢の友人ができましたが、それでもなお私は同年代のイギリス人の友人がいないことに焦燥感のようなものを抱いていました。しかしそれは無意味だったと思います。20ヶ国以上の人たちと親交を深め、多様な価値観に触れることで期待以上のものを得ていたのです。また、英語教室の講師である80代のイギリス人女性とは祖母と孫のような親しい仲になりました。彼女はお茶会をしながら歴史や伝統文化を教えてくださいました。このような経験を私は留学当初、全く予想していませんでした。最初の期待と違ったからこそ別の可能性に辿り着き、かけがえのない経験ができたのだと思います。

中園 桃子 さん ● 4回生 ● 認定留学

ありがたさを噛み締めながら

私は今年の夏、アウクスブルク大学での約11か月間の留学を終えて帰国する予定です。アウクスブルクはドイツ南西のバイエルン州に位置し、美しい街並みに加えて、歴史ある建物が多く特に市庁舎や教会が観光名所となっています。町中いたるところに路面電車が走っており学生証があれば乗り放題になるのが魅力です。冬にはドイツの有名なイベントの一つであるクリスマスマーケットを楽しむことができます。ドイツ名物であるソーセージやホットワイン、そしてイルミネーションで飾られた幻想的な景観が素晴らしい思い出になることは間違いありません。

授業は基本的に英語の使用は禁止、町に出ればドイツ語以外通じないことがある土地で、入学してから1年半ほどしか学んでいない第二外国語で生活するのは本当に大変です。留学期間中はさまざまな手続きをサポートしてくれる現地の友人や授業外の語学学習を助けてくれるタンデムパートナー、そして応援してくれる家族や先生へのありがたさを痛感しました。留学を通して苦労した経験は語学力だけでなく今までの価値観も変えてくれたと思います。

北川 絢音 さん ● 3回生 ● 交換留学

行動すれば何かが変わる

私が10か月間留学したフランスのオルレアンという街は、パリから電車で1時間ほどの場所に位置しています。この街はジャンヌ・ダルクゆかりの地として知られ、毎年ジャンヌ・ダルク祭が開かれます。そのような歴史ある街のオルレアン大学付属の語学学校で、私はフランス語のほかにも、歴史や文化などについて学びました。本来の自分の能力よりも一つ上のレベルのクラスであったため、最初の頃は授業についていけず、失敗を恐れて発言もしませんでした。そのことが理由で落ち込む日も多かったのですが、友人たちが励まして支えてくれたおかげで次第に授業に追いつき、発言も積極的にできるようになりました。このことで自信が付き、何事も「まずチャレンジしてみよう」という姿勢が変わりました。バカンスの間は、近辺のヨーロッパや少し離れた北欧を旅行し、フランス国内を一人で旅するようになりました。積極的に人とも関わることになり、大切な友人たちとも親密になることができました。誕生日の前日から友人たちが集まり、20歳を迎えるその瞬間をみんなで祝ってくれたことは一生の思い出となっています。

川原 さくら さん ● 4回生 ● 交換留学

リーズ大学 派
／ヨーク・セントジョン大学《イギリス》

リール政治学院《フランス》
オルレアン大学《フランス》

アウクスブルク大学
《ドイツ》

ペルージャ外国人大学
《イタリア》

セヴィリア大学
《スペイン》

モンゴル国立大学
《モンゴル》

内モンゴル民族大学
《中国》

青海民族大学《中国》

江原大学《韓国》

光云大学《韓国》

中興大学《台湾》

海南大学《中国》

サンカルロス大学
《フィリピン》

湖南師範大学
湖南農業大学
中南大学《中国》

留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけでなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学することを推奨しています。期間は長期留学(9～12ヵ月)・中期留学(3～6ヵ月)・短期語学研修(3～8週間)があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。



派遣留学

USA

「違い」を越えて

コロンビアカレッジでの留学は、私に成長する機会を多く与えてくれました。私が住んでいた寮は別名「グローバルレジッド」とも呼ばれ、世界各国から学生が集まり、とてもグローバルで特別な環境です。私は「色々な国の出身の学生と一緒に住めるなんて素敵だ」とワクワクしていましたが、実際は楽しい事だけではありませんでした。ルームメイトとの生活習慣の違いや、共同スペースの使用の仕方など、互いの「違い」に悩まされることも多く、私以外にも不安を感じている学生は少なくありませんでした。留学当初は、つい日本人の感覚で周囲を捉えてしまい、「違い」を窮屈に感じることもできませんでした。しかし互いの性格や文化を知り他の寮生と次第に友好関係を築いていく中で、「違い」を理解し、尊重しようとする姿勢が大事なのだと気づきました。寮生活のおかげで本当の多文化共生の在り方を学び、相互に学び合える一生もの人間関係を築けたといえます。自分自身の成長に繋がる人との出会いや機会が多く溢れる中で、自分を見つめ直すことのできた素晴らしい留学生活でした。

玉置 真 さん ● 4回生 ● 交換留学

SOUTH KOREA

一歩踏み出す勇氣

韓国での交換留学は、高校生の頃から目標でした。私が1年間の留学に選んだ光云大学は、ソウルの西北に位置しており、中心地からは少し離れているため、より現地の人の生活に溶け込みやすい環境でした。大学の授業では、韓国語の学習にとどまらず、中国語の勉強をしたり、日本の政治について現地の学生と意見交換をしたりする機会を得ることができました。そのことによって、日本を客観的に見ることもできるようになりました。留学生生活を始めた頃は、まだ交友関係がなかったため、留学の手応えを感じられずいたのですが、留学生生活を大きく変えたのは、一歩踏み出す勇氣でした。日本語の授業で知り合った学生からサークル活動でダンスをしていると聞き、思い切っても参加したいという意思表示をしたら、快く受け入れてくれました。また、学外でも色々な人に出会ってみたいと考え、大学から少し離れたオフィス街でアルバイトをしました。そのアルバイト先で現地の学生や現地で働く日本人の方と接するうちに本気で自分の将来について考えるようになりました。「あのときに声をかけていなければ…、あのときに電話していなければ…」と後悔するよりも、「やってみるかどうかが迷ったときにはやってみる」という判断がどれだけ重要であるかを実感しています。

市原 朝果 さん ● 3回生 ● 交換留学

CHINA

現地の文化のことは現地の人に聞こう!

私は中国の湖南省にある湖南師範大学に10ヶ月留学しました。大学がある長沙市は、高層ビルが立ち並び、ショッピングセンターもある都会で、交通の便が良いところです。大学の近くには日本語教室があり、私は毎週足を運んでいました。そこには日本に興味がある中国人の学生がたくさんいて、私は月に一度、ボランティアで日本の文化について彼らに教えるということもしました。その授業の準備をする際に改めて日本の文化について調べると、意外と知らなかったことがたくさん出てきます。むしろ彼らの方が詳しいこともあり、中国人学生からの質問にすぐには答えられないこともあり、そのような時には調べなおしてから、答えるようにしました。その反対に中国の文化については、彼らに教えてもらいました。日本と中国の文化の類似点や相違点を現地の学生との会話から学ぶことができ、幸運だったと思います。現地に住んでいる彼らだからこそ知っている観光地の情報も提供してもらい、日本語教室のおかげで私の留学生活は充実したものとなりました。

小川 菜花 さん ● 4回生 ● 交換留学

ランシング・コミュニティカレッジ 派
ミシガン州立大学連合(15校) 派
ミシガン州アルマカレッジ 派
ミッドミシガンコミュニティカレッジ 派
《アメリカ合衆国》

ミシガン州立大学連合(15校)
・セントラルミシガン大学
・イースタンミシガン大学
・フェリス州立大学
・グランノール州立大学
・レイクスベリオル州立大学
・ミシガン州立大学
・ミシガン工科大学
・ノーザンミシガン大学
・オークランド大学
・サギノーノール州立大学
・ミシガン大学アナーバー校
・ミシガン大学ディアボーン校
・ミシガン大学フリント校
・ウェイン州立大学
・ウェスタンミシガン大学

ワシントン州
スカジットバレーカレッジ 派
オリンピックカレッジ 派
エベレットコミュニティカレッジ 派
《アメリカ合衆国》

ポートランド州立大学 派
《アメリカ合衆国》

カリフォルニア州立大学
モンレーベイ校 派
《アメリカ合衆国》

カリフォルニア・
マウントセントメリーズ大学 派
《アメリカ合衆国》

テキサス州
ヒューストン大学
ウィクトリア校 派
《アメリカ合衆国》

アラバマ州
オーバーン大学
モンゴメリー校 派
《アメリカ合衆国》

シドニー工科大学
《オーストラリア》

オークランド大学 派
《ニュージーランド》



MONGOLIA

味わい深い文化の中で

私が留学していたモンゴル国立大学は、全人口の半数近くが住む首都のウランバートルにあります。遊牧文化のモンゴルと農耕文化の日本、その違いに戸惑いながらも、驚きと発見の日々でした。モンゴルでは強い性格の人が多いのですが、親しくなると必ず「困ったことがあれば助けるから!」と、決して建前ではなく本心から言ってくれます。モンゴル人の日常生活を体験してみたいと私が話したら、県大に留学経験のあるモンゴル人の友人がホームステイさせてくれました。自分が意思表示すると実現することが多く、人との縁を大事にするのもモンゴルの魅力の一つです。モンゴルには韓国やロシアなどの国以外に、ラオスや北朝鮮、内モンゴルといった日本では馴染みが薄い国や地域の人もいます。そういった国の人たちと交流できたのは貴重なことです。-20℃を下回る厳しい冬や、羊の肉が中心の食事、草原で見た満点の星空、遊牧民との関わりなど、日本にはないことをたくさん経験することができました。大変なことも多いのですが、味のある留学生活を送ることができ満足しています。

國領 沙紀 さん ● 3回生 ● 交換留学

小さくなった地球

イタリアの中心部に位置し古い歴史をもつ美しく穏やかな街、ペルージャ。ここで私は10ヶ月間交換留学生として暮らしていました。私が通っていたペルージャ外国人大学では世界中の国から年齢も目的も異なる人々が集まりイタリア語を勉強しています。文化や習慣も全く異なる人たちと同じ教室で肩を並べて勉強していく中で、私がどこかで抱えていたステレオタイプは崩れ去りました。イタリア語を全く話せない状態で現地に飛び込んだ私ですが、3ヶ月もすれば友人と話すのに難はなくなり、放課後には友人とカフェを楽しみながら授業の復習をし、料理が得意なイタリア人の友人の家で美しい夜景を目の前に夕食のひとときを満喫するという1日のスタイルができあがりました。様々な国の友人とともに、あるときには恋について、またあるときには真剣に政治について語り合う日々の中で、留学前には縁遠かった国際情勢も今では身近なものに感じられるようになり、巨大な地球も少し小さく思えるようになりました。

橘 彩香 さん ● 4回生 ● 交換留学